

農業関係高校の魅力と農業クラブの活動を 小中学生を含めた地域に発信するには どのような方法があるか。



クラブ員代表者会議 北信越ブロック連盟 福井県立福井農林高等学校
生活科学科 3年 生出 聖奈
生産流通科 2年 江尻 菜月
生産流通科 2年 宮口未衣夢

1. はじめに

(1) 福井県の紹介

私たちの住んでいる福井県は北陸地方にあります。福井県の面積は、約4,200 km²で総人口は769,300人です。県の花はスイセン、県の木はクロマツです。福井県の観光名所といえば、東尋坊、福井県立恐竜博物館、曹洞宗大本山永平寺など、たくさんの観光地があります。



(2) 福井県の農産物特産品

福井県の農産物特産品には、いちほまれや越のルビーなどがあります。スライドにはたくさんの特産品が掲載されていますが、特に福井が生み出した新品種であるいちほまれを皆さんにアピールしたいと思います。いちほまれは別名越南 291号と呼ばれ、平成28年度に福井県で誕生しました。最初は20万種あった候補米から選抜に選抜を重ね、よう



やく作られたお米がいちほまれです。そして、平成30年度に日本穀物検定協会が公表した食味ランキングでは5段階評価の最高評価となる「特A」に選ばれました。絹のような白さと艶、口に広がる優しい甘さ、粒感と粘りの最高の調和。この3つがいちほまれの大きな特徴です。機会があったら、是非、食べてみてください。

(3) 北信越ブロック連盟について

北信越ブロック連盟は新潟県 9 校、長野県 11 校、富山県 5 校、石川県 4 校、福井県 3 校の 5 県 32 校からなるブロックです。

(4) 福井県連盟について

福井県連盟は福井市に所在する福井農林高校、坂井市に所在する坂井高校、小浜市に所在する若狭東高校の 3 校で構成され、クラブ員数は全ての学校を合わせて 734 名です。

(5) 福井農林高校の紹介

私たちが在学する福井農林高校は明治 26 年に創立されました。今年で創立 126 年目を迎える、歴史と伝統ある福井県で唯一の農業高校です。私たちは、校訓「大地に生きる」のもと、自然に親しみ、大地を踏みしめ、誠実に生きるため毎日学習に取り組んでいます。福井農林高校では、生物生産科、環境工学科、生活科学科、生産流通科の 4 つの学科があり、自然環境および人間生活との関



連や仕組み、環境保護などについても学び、それぞれ専門性の高い学習に励んでいます。農業、林業、食物、生活について学ぶ科目群、および人間文化や社会のあり方について幅広く学ぶ科目群で構成される学校です。また、福井農林高校には全国総合文化祭で優勝を勝ち取り、海外公演も行っている郷土芸能部や、インターハイ出場経験のある相撲部やレスリング部などがあり、部活動も盛んな高校です。

2. 福井農林高校の取り組み

(1) 地域との活動

ア 花とふれあいプロジェクト

花とふれあいプロジェクトは、地域との交流を深め、地元の小学生に花への興味を持ってもらうことを目的とした活動で、永平寺町志比南小学校を対象として行っています。主な活動内容として、花の寄せ植え、種まき、プランターの管理を行っています。植えた花はパンジーとビオラで、1人あたり5

粒ずつ種をまきました。プランターの管理では、ペチュニアの枯れた花を摘み取る作業を行いました。参加した小学生の子どもたちからは、「楽しかった。」という声や「種のまき方が分かった。」という声が聞かれました。この活動は春と秋に年3回実施しており、今年で6年目を迎える大人気企画です。



イ 子ども料理教室

子ども料理教室は、地域の公民館が主催して、生活科学科3年生の生徒が先生となり、地域の小学生を対象に年に2回行う活動です。子ども料理教室の目標は2つあり、1つ目は苦手な野菜を克服してもらうこと、2つ目は料理の楽しさを感じてもらうことです。当日は小学2年生から6年生までの子どもたちが参加してくれましたが、その中には初めて包丁を握る子たちもいました。子どもたちは「苦手なトマトを食べることができた。」という言葉や、「お姉ちゃんたちと話しながら楽しく料理することができた。」という言葉などを笑顔で語ってくれました。

ウ ハピネス花壇

このプロジェクトは公民館にある休耕田を花壇として有効活用し、地域の方々との交流の場を提供することを目標に始めました。課題研究で公民館の職員の方にデザインを提案し、地域の方々と一緒に1つの大きな花壇を完成させました。ハピネス花壇の完成後には、



は、地域の方々に知っていただくために「花壇の完成を祝う会」を開催しました。その際、地域の幼稚園児に絵を描いてもらい展示することにしました。また、花壇に植え付けたひょうたんを使用してバーバパパなどのキャラクターを制作し、参加してくれた子どもたちにプレゼントしました。完成会の様子は、地元のニュースや新聞記事にも取り上げられ、私たちの取り組みを広く知っていただける機会となりました。



エ 染色教室

ハピネス花壇に咲いたマリーゴールドや紅花を利用し、公民館で染色教室を行いました。酢や重層などを使用し、約3時間かけて布を染色しました。参加者の感想として、「植物を育てるところから始めたのが良かった。」「紅花が赤ではなくピンクに染まったことが新たな発見だった。」などの感想が聞かれました。また、地域の方々との交流を深めることができました。



(2) ボランティアおよび他校との協働活動

ア 農業ボランティア活動

農業ボランティア活動では、10月に地域の特産品であるニンニクの植え付けをし、翌年の6月に収穫、根切り、選別、箱詰めを行います。これは農家が安心して農業を持続するため、農作業をサポートする人材を積極的に活用しながら、「みんなが後継者」として地域農業を支える体制作りを進める県独自の事業です。その他にも、特産品である越前スイセンの球根の堀取り、植え付けなども行っています。

イ ジャムプリンプロジェクト

高校生ならではの発想で地域の食を発信するジャムプリンプロジェクト。福井農林高校、奥越明成高校、福井商業高校の3校が連携し、各校40名の生徒がそれぞれの学校の特徴を活かしたアイデアを出し合いました。その結果、福井県勝山市特産のメロンを使用した「若猪野メロンプリン」、福井の伝統野菜である木田ちそを使用した「ごちそうぷりん」、福井農林高校の校内で育てたリンゴを加工して使用した「リンゴジャムプリン」の3種類の商品を完成させました。2018年11月20日に県内のスーパーなどで順次販売され、消費者からは「見た目が鮮やかで美味しそう。」との声が聞かれました。



3. 今後の計画およびまとめ

2019年7月23日（火）、全国の農業高校ではじめての「福井農林高校SDGs宣言」を発表しました。SDGsは、持続可能な社会の発展を目指して17の目標と169のターゲットから構成される世界の共通目標で、スローガンとされているのは「no one will be left behind」、「誰も置き去りにしない」です。SDGs17目標のうち、農業に関係しているのは第2目標の「飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」、さらに第12目標の「つくる責任 つかう責任」や第13目標の「気候変動に具体的な対策を」なども関連性があります。

福井農林高校は紹介させていただいた活動だけでなく、他にも先輩方から受け継いだ活動が数多くあります。これからは、SDGsを農業クラブの活動につなげ、農業高校の魅力を小中学生を含めた地域に発信していくことで、持続可能な社会を達成することを目的に活動していきます。

